

# 三木首相 反対踏まえ断念

佐藤栄作元首相が一九七五年に死去した際、当時の三木武夫首相は国葬を検討したものの、法的根拠の乏しさや野党の反対を踏まえて実施を断念した」とだが、当時の報道や政府関係者の日記などで分かった。佐藤氏の葬儀は内閣自民党、国民党有志が催す「国民葬」として行われた。三木政権は「戦後、国葬令が廢止され、国民葬が今の時代に一番即したやり方」と判断。国民の十分な理解を得ないまま、安倍晋三元首相の国葬を決めた現政権とは対照的な対応をしていた。

(大野暢子、清水俊介)

## 内閣と党が負担

佐藤氏の首相在任期間は当時、戦後最長。沖縄返還に取り組み、非核三原則を提唱したことなどでノーベル平和賞を受賞していた。

佐藤氏が死去した七五年六月三日付の本紙夕刊による



井出  
一太郎  
官房長官

- ・政府、自民党だけでなく、国民党各層の方々にご葬儀の一覧をなつてもうのが最も適していると判断した
- ・(国葬としなかった理由を問われ)国葬令も廢止されており、国民葬というのが最も穏当なところで、今の時代に一番即したやり方であろうということに落ち着いた
- ・吉田茂元首相の国葬も適用法規はなかった

(1975年6月3日、国民葬の実施を閣議了解した後の記者会見／本紙報道から)



森田一  
蔵相  
秘書官

夜中に、佐藤元首相が死去した。(中略)  
院内で国葬にするかどうかを協議した。  
国葬には、野党側が異議があるとのことで国民葬に決定した

(佐藤氏が死去した75年6月3日の日記／「大平正芳秘書官日記」から)

## 当時の官房長官 法的根拠なく「国民葬が穏当」

佐藤氏の首相在任期間は当時、戦後最長。沖縄返還に取り組み、非核三原則を提唱したことなどでノーベル平和賞を受賞していた。

井出一太郎官房長官が、吉田茂元首相の国葬も適用法規はなかったと判断した。井出は、吉田氏の国葬に費用を負担し、親交がある著名人らが運送に参加する国民葬に決まった。

井出一太郎官房長官は記者会見で、国葬の法的根拠たつ

平正芳蔵相（当時）らが葬儀のあり方を協議。六七年に死去した吉田茂元首相と同様、金額国費で負担する国葬とするべきだとの主張もあったが、三木氏の判断で、内閣と党が費用を負担し、親交がある著名人らが運送に参加する国民葬に決まった。

井出一太郎官房長官は記者会見で、国葬の法的根拠たつたと指摘。吉田氏の国葬に關しては「適用法規がなかった」と指摘し、国葬に反対していた複数の野党も国民葬には一定の理解を示した。

政府関係者も意思決定の過

程を語り残している。大平蔵相の秘書官を務めた森田一氏の「大平正芳秘書官日記」（東京堂出版）によると、七五年六月三日に「国葬には、野党側が異議があるとの」上で国民葬に決定した」と記した。

## 今回も根拠示さず

今月二十七日に開かれる安倍氏の国葬を巡っては、八日の衆院議院運営委員会の閉会中審査で、立憲民主党の泉健太代表が「」の数十年間、元首相にどんな業績があつても國葬ではなかつた。その知恵や深慮遠謀を褒め、國葬を強行しようとしている」と批判。岸田文雄首相は「その都度、政府が総合的に判断するのであるべきだ」と答えるにつけ、佐藤氏以降の首相

内閣・自民党合同葬から対応を変えた明確な根拠を示さなかつた。

安倍氏の国葬決定に際し、佐藤氏の国葬を断念した経緯を参考にしたかどうかについて、内閣府の担当者は、取材に「佐藤氏の国民葬を含む先例を十分に踏まえた」と説明した。